

S S K A

ああるぴい

R P 三重支部会報第14号

—◇ はじめに ◇—

今年三重支部ができて15周年となり、それを記念してオーストラリアの旅を企画し、実施しました。とっても広大な大地を旅して皆さん楽しまれたようです。

そこで、今回はその旅行記を特集させていただきました。

皆様の投稿がたくさんありますので、楽しみにして読んでください。

目次

1. 新春交流会のお知らせ
2. オーストラリアへの旅 雨窪 美紀
3. RP 三重支部設立15周年記念 オーストラリアへの旅 伊藤 和子
4. オーストラリア旅行を終えて 小川 正次
5. オーストラリア旅行 テロピアパークスクールなどでの体験 河原 洋紀
6. オーストラリアへの旅に参加して 木村 靖子
7. 私のオーストラリア旅行 匿名
8. 初めての海外旅行 オーストラリアの旅 榊原 美佐子
9. オーストラリア旅行を終えて 須藤 加代子
10. オーストラリア学校訪問にて 宮本 忠
11. 世界網膜の日 JRPS 京都大会に参加して 加藤 多
12. 東海北陸リーダー研修会に参加して 佐藤 好幸
13. 秋の野外交流会を終えて 肥留間 英美
14. ふわりんこ東京へ行く 丸山 美代子
15. 平成21年度RP三重総会議案書

平成22年12月吉日

会員 各位

日本網膜色素変性症協会三重支部
支部長 河原洋紀
住所：松阪市岩内町614
電話：0598-58-2664
Eメール：hk2664@aqua.ocn.ne.jp

平成23年 RP 三重 新春交流会のご案内

師走も残すところ僅かとなり、なにかと忙しい毎日をおすごしのことと思いますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、恒例の新春交流会を下記のような日程で開催いたします。

今回は、北勢 四日市で開催です。

新春にあたり、食事をしながらともに楽しい1日を過ごしたいと思います。

初めてご参加のかたも、参加してよかったとの思いでお帰りいただけるように企画しています。毎年ご参加のかたともども、充実した1日を共に過ごしましょう。ふるってご参加ください。

◎期 日……平成23年1月30日（日曜日）9時30分～15時

◎集合場所……午前9時30分 近鉄四日市駅、南改札口を出た所

◎日程 午前の部 講演会 午前10時から11時30分

講師 前愛知県支部長 菊池秀一氏

会場 四日市総合会館（8階第5会議室）

四日市市諏訪町2の2 TEL059-354-8292

四日市駅から徒歩8分。 四日市市役所 すぐ西のビルです。

午後の部 食事と交流会及びオークション 午前12時から午後2時30分

場所 「木曽路」しゃぶしゃぶの店 日本料理

四日市市ときわ1丁目6の23 TEL059-354-1171

送迎 総合会館から木曽路・木曽路から四日市駅までバスにて送迎

◎会 費……4000円

◎オークションの開催

RP会報でもご存知のことと思いますが、研究助成資金捻出のため研究基金を設立し、寄付金募集を行っています。

三重支部では、会員持ち寄り品のオークションにより資金調達を行うこととなりました。つきましては、新春交流会にそれぞれ品物を持ち寄り、オークションを行います。みなさまのご協力をお願いします。

◎詳しいことのお問い合わせ 小川裕子 0593-82-0020 まで

◎当日の緊急連絡先 090-7696-7499 (河原)

◎申し込み 1月15日土曜日までに 各地区連絡担当者まで 御連絡ください。

なお、地区担当者は下記のとおりです。(一部移動あり)

県北部の女性会員 小川裕子 0593-82-0020

県北部の男性会員 佐藤好幸 0594-31-4041

yoshiyuki5110911@yahoo.co.jp

津・亀山地区 肥留間英美 090-7435-6754

hdemitan@ma.mctv.ne.jp

久居一志・伊賀地区 桜井将人 090-3389-5598

mogu_dream@ybb.ne.jp

松阪・飯南地区・紀勢地区 辻本和仁 090-6765-5739

motpin44@amigo2.ne.jp

伊勢・度会・多気地区 木村靖子 0596-52-0811

yasuko-k@triton.ocn.ne.jp

志摩・鳥羽地区 小川正次 0599-43-2523

sanryoin@poplar.ocn.ne.jp

◎会場への便利な電車

賢島発名古屋行き特急

賢島発 7時25分・・鵜方 7時30分・・鳥羽 8時・・伊勢市 8時16分

松阪 8時31分・・中川 8時39分・・津 8時50分・・四日市着 9時11分

鳥羽発名古屋行き急行

鳥羽発 7時46分・・伊勢市 8時03分・・松阪 8時19分・・中川 8時32分

津 8時46分・・白子 9時03分・・四日市着 9時23分

名古屋発松阪行き急行

桑名発 9時02分・・四日市着 9時14分

私は海外旅行が初めてです。それに1週間という長旅も初めてでした。不安一杯の海外旅行でした。6月14日に津のなぎさ町からいよいよ出発です。このツアーの団体はJ R P S（日本網膜色素変性症協会）の三重支部（R P 三重）創立15周年記念行事として企画された旅行で、安心安全を踏まえてなおかつ安価にてオーストラリアを楽しんでこよう、と言う趣旨にて実施されました。

参加人数は日本から29名と現地で1名の30名の団体です。日本とオーストラリアのかけ橋になってくださっている三重オーストラリア、ニュージーランド協会の宮本会長さんが私たちの患者会員であるのがこの旅行実現に結びついたと言う事です。そこで私も娘の引率にて参加させてもらった。

セントレア空港から韓国のインチョン空港を経由してシドニーへのトータル飛行時間13時間以上かかりました。機内食はまずまず嫌いな物もなく食べることが出来たが、シドニーへ向かう中での朝食は午前3時半頃に出てきたのには睡眠中でもあり、驚きでした。しかし食べてしまいました。

シドニー空港からキャンベラの連泊3泊するクウォルティーホテルへバスで3時間ほどでつきました。ここで4人部屋を与えられて荷物を収納してからいよいよ観光です。まずその日は国立美術館（ナショナルギャラリー）へいきました。視覚障害をもつ人のために用意されている、手で触ってわかるオーストラリアの文化と言うことで、蜂蜜を入れる籠や色々な壺などを20点ほど順番に見せてもらいました。

16日は朝から役員さん達10名はテロピアパークスクールの日本語学級へ招かれてゲストティーチャーで行き、私たちはポタニックガーデンという植物園の散策です。日本にはない珍しい植物が沢山植えられてあった庭園内のカフェテラスで昼食を食べました。オーストラリアにはこのような屋外で食事する所が多く有るとのことです。

その後ナショナルミュージアム（博物館）へ行きました。日本から来ていた坂本さんという若い女性の係員が案内してくれました。日本人だと言うことで坂本さんもすごく喜んでくださり、テンションが上がっていました。夜のパーティーにもお誘いしたら来て下さいました。夜はキャンベラやシドニーの視覚障害者の人たちがホテルに来てくれてパーティーを持った。私たちはバスなどで練習をしていった「ふるさと」「富士山」「幸せなら手を叩こう」の三曲を合唱しました。日本の視覚障害者は制度も充実していて職業に恵まれている事もあり、幸せを感じました。

17日はカウラへの遠足だ。ここには旧捕虜収容所があり、南方で捉えられた兵士を収容された所に展示館があってその収容されている様子が展示してありました。日本国兵士は捕虜になることが国民の恥であり、末代までがその不名誉として残るので国のために戦死した方がよいとの軍事教育を受けていたとのことで、暗い私生活を写した写真が掲示されている反面、イタリア人はサッカーなどをして捕虜生活をエンジョイしている写真が並べてあるのが対照的であると説

明を受けました。オーストラリア人は捕虜となっている人たちは国のために戦ってきた国の英雄であるから手厚く扱ってあげよう、との国民性があったらしいです。それなのにそこで昭和19年8月5日に日本兵は、ここから脱走することを企てた。殺害されることを知りつつ戦死の名を日本に知らすために340名が試みたとのことです。そこで230名の若き兵士が死の道を選んだという悲劇を聞かされました。オーストラリア人としては日本人の心が理解できないと思いつつ殺害しなければいけなかったことに心痛め、日本人墓地を作り葬ってくれたとのことで、今も8月5日には合同慰霊祭を現地の人たちがしてくださっているとの暖かい心に触れてきました。その墓地には戦争にかかわって亡られた人たちを纏めて一つの日本人墓地としておまつりしてあるのです。小高い丘の静かな所で整備された芝生の中に一風変わった横長の埋められた石の上に戦没者の名前と年齢のプレートが貼り付けてありました。ここで無念にも命を絶たれた人たちの無念を思うと自分たちの現在の命あることを喜べずにはいられなかったです。その500体ほどある、お墓の前で持ってきた線香を供えた後、日本の代表とする「富士山」の歌を全員で合唱しました。すすり泣く人もあり、昔の悲劇を顧みた時間でした。これが私として一番思い出となったようです。

18日はキャンベラからシドニーへの移動です。ブルーマウンテンズを経由してホテルにチェックインしました。ブルーマウンテンズとは山の上が切り取られてしまったような平になっていてその山が何千キロも続いていて世界遺産になっている所です。この名前はユウカリから出る油が風にあおられてそれが青い色に見えて山全体が青く見えるところから付けられた名前らしいです。ちょっぴり森林浴をした気分になりました。

19日はシドニーの観光地、オペラハウスへ行き、シドニー湾の定期船に乗船し、遊覧しました。ハーバーブリッジを見て日本とは全く違った光景を見学だと言うことだが、自分は見えないので説明をベースとして想像で楽しみました。その後町中を周遊しているモノレールに乗ってホテルに戻ってきました。夜はチャイナタウンへ出かけて全員で中華料理を10名のグループに分かれて食事を楽しんだ。私たちのグループには78才の誕生を迎えられたおばあちゃんがおられて、特別にケーキとワインを用意して誕生パーティーをしました。

いよいよ最後の宿泊です。もっと楽しんで行きたい、と思ったのは自分だけであろうか。

20日はホテルを早朝の5時に出発して空港へ向かい沢山の思い出を持って夜の11時頃に帰宅しました。

出発から風邪気味で体調は優れてはいなかったが、鍼治療を受けたりしてみんなと同じように行動が出来たことに感謝しています。思い切って出かけた事以上に何かを得たものがあり、人生の1ページを強く刻み込んだ旅でした。

宮本先生を始め、オーストラリア、ニュージーランド協会のみなさんまた、この旅行を企画してくださった JRPS 三重の役員の方々、多くのかたにお世話になりました。お礼を申し述べたいです。

乱文な旅行記にお付き合い頂きありがとう御座いました。

6月14日から20日まで 5泊7日の旅^{^o^} 宿泊は キャンベラのクォリティーホテルデイクソンで3泊、シドニーのホリディインダーリングハーバーで2泊の2ヶ所で、ホテルの移動も少なく、ゆっくりと出来た 旅行でした。

旅の7日間 笑いあり、感動ありで、毎日が楽しく 心温まる日々を過ごさせて頂き、素晴らしい思い出が出来ました。

楽しい旅行は出発当日！セントレアから始まりました。ふとなにげなく、ある方向に視線を向けると凄く大きなバナナ！（私が今まで見たことがないような！）を、パクッと口の中へ！なんとパワフルな！見ていた私まで、バナナの栄養を頂いたような気になり、元気を頂きました。

現地では松阪出身の藤原さんと言う方が、最終日まで同行してくださり、とても安心感のある旅行でした。いつもニコニコ笑顔で やさしい口調の藤原さんのお話などはわかりやすく心休まりました。

キャンベラ、カウラ滞在中は、スチュワートさん（オーストラリア・日本協会キャンベラ会長）も、同行して頂きオーストラリアの自然、素晴らしさを実感させて頂きました。

キャンベラで行われた交流会では オーストラリアの方々が、各テーブルに分かれて席に着いてくださり、楽しい夕食会（ディナーパーティー）。私たちのテーブルには、フィッシャーひろ子さんと言う方が座られました、沖縄出身の方で、ラッキー！！内心ホッとしました。英会話が全くわからない私にとって、気にせず日本語で話せる安堵感楽しく会話が出来、良かったです。

出し物は・・・オーストラリアの方々・・・ミュージック（キャンベラの人達）
その中には、お琴もありました。

日本からは、ハーモニカ、リコーダーの演奏、手品・・・そして、日本の歌で、「富士山、ふるさと、幸せなら手をたたこう」の3曲を皆で、合唱！披露してきました♪

私たちの 感謝の気持ちは 伝わったかなー？

今回の旅行では、森林浴、ブルーマウンテンズ ロープウェイにも乗りました。

美術館、博物館等など・・・アッ！最後の夜はハーバーの夜景！！とてもきれいでした。

皆さんとオーストラリアの青空（本当に青い！！）の下、きれいな澄んだ空気の中で 楽しく過ごせた事、感謝の気持ちで一杯です。

4時間ほどかけてキャンベラからシドニーへのバスでの移動の中、私たちが退屈しないように、クイズを出し、気を配って頂いた小川正次さん（GRPS オーストラリア旅行担当）、ありがとうございました。

後で知った話ですが、旅行のスケジュールを組むのに かなりのご苦労があったとの事・・・そのおかげで、楽しい思い出もさせて頂き、何事も無く！無事に帰国出来たことに感謝！しています。

色々とお世話して下さいました方々、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、今回この企画を立てて下さった河原さん、安心、安全な旅になるように、現地へ下見に行き、ホテルや交通手段の手配等など色々とお世話して頂いた宮本先生、奥様、会計他色々お世話して下さいました富田さんありがとうございました。又この様な企画！楽しみにしています。

今年は J R P S 三重支部 (R P 三重) が全国で第 1 号として支部を立ち上げてから 1 5 周年を迎えたのである。

1 0 周年記念行事としてニュージーランドのロトルアを中心とした障害者との交流を始め視覚障害者としてふれてにて体験の出来る企画を組み入れての旅行を計画の上実施してから 5 年の歳月が流れた。

あの時の感動をもう一度味わいたい、との思いで今回の旅行ツアーに再度同行してもらった人も半分はしめていた。

今回は 6 月 1 4 日からオーストラリア 5 泊と機内で 1 泊の旅だった。2 9 人のツアーにゴールドコーストで幼稚園を経営されている藤原先生が合流して下さり、3 0 名の旅行となった。

まずは昨年 1 2 月 2 5 日に高田短期大学にて私たちの会の役員と豪 NZ 協会の役員さんとの第 1 回目の会合を持った。会員でもあり、豪 NZ 協会会長の宮本先生から計画の流れをお話し頂き、海外旅行をするためには、と一言で準備や手続きなども聞かされ、豪 NZ 協会の理事の畠山先生に航空券の手配についてお願いをすることとなった。

安全安心を元に安価と言うおまけが付いているため、頭をひねってもらって色々と検討に検討を加えて、2 点 3 点と変更はあったが、これは公表せずに内部のみの情報として相談は受けたが、ご苦労をかけたことは内部事情のわかっている一部の人のみが知っていることだ。最初の計画はカウラでの宿泊 3 泊をメインに考えられていたが、現地でのコンタクトがうまく進まず、宮本先生ご夫妻はしびれを切らして現地へ赴き、前もって計画コースの下見に出かけて行って身を持って一つずつチェックを入れながら帰宅してから確認を取られた行程表を作ってくださいました。

一時はこの旅行が成立しないのではなかろうか。と真剣に考えられたそうです。しかしどうにか纏めて下さり、5 月 2 日には旅行の説明会が松阪の本町公会堂でおこなわれました。

このころは旅立つ前の一番興味が深まり、みんなの心はワクワクドキドキの思いで、宮本先生の説明を一言も漏らさぬようにと、聞き耳を立てて真剣に聞いていたのではなかったでしょうか。豊かかつ新鮮なオーストラリア現地の様子を聞き、感動したものでした。

参加者の自己紹介も行い、初めて顔を合わせた会員さんを始め、付き添いの人たちとも溶け合い出発前の夢を語り合いました。

出発までに少しでも情報をもって頂こうと 4 1 通のメール送信を行い、メールのない人にはファックスにて周知させて頂き、いよいよ出発の日を迎えた。

それぞれ大きなキャリーバックを持ち、荷物とともに夢を沢山持ってセントレアへ6月14日の14時に全員笑顔にて集合した。

ここからいよいよ旅立つこととなり、20日の21時頃にセントレアへ帰国した。

旅先での沢山の思いではあったが、ここでは触れぬこととしよう。

この旅行に対して企画運営設定とお世話をおかけしました豪NZ協会の人たち、まずは宮本先生ご夫妻に感謝です。それにご同行頂き、引率の総まとめと会計を一切お任せしてきっちりとお役を果たして下さった富田先生にも感謝です。また現地で合流してお世話頂いた藤原先生にも感謝です。

また全員の印としてリボンや荷物の印を間違わないように付けるためのたすきなどを作って下さったボランティアの方や、車いすを手配して下さった人たちやそれぞれ助け合って手助けをして下さった人たち皆さんに感謝します。

また現地で優しくエスコートして下さった触れあいのあった人たちの暖かさにも感謝しています。帰宅後もオーストラリアからの私たちに対する礼状なども沢山いただき、これまた会計報告などや喜びの声をメールにて32通皆さんに送らせて頂きました。そしてこの思い出を語り合おう、と言うことで8月8日にまた松阪にほとんどの人たちが集い、反省と思い出を和気藹々と語り合ってきました。

最後には、5年後も元気に第3段目の20周年記念旅行が出来ることを祈りつつ思い出を心にそっとしまつて次回の企画を密かに夢に描いている人がいることを感じ取れました。

本当に貴重な思い出を作れたことに感謝一杯です。

一応取りまとめ責任者としてお役を頂きながら充分の事が出来ず、1人1人への配慮が欠けていたようで、誠に申し訳なく思い反省致しております。

協力頂きました豪NZ協会の人たちを始め、引率を引き受けて下さった人たち、これに関わって下さったご家族や知人やボランティアの人たち、本当にありがとう御座いました。

テロピアスクール訪問

生徒さんたちとの日本語の会話をとおして、生徒さんとの交流を持てたらという思いで参加しました。玄関で8年生の生徒さんに出迎えられて教室に入りました。

1 限目

私たちのチームは男子生徒が4名のグループでした。まだ幼い子供が話をするぐらいの日本語で、熱心にしゃべってくれました。あまりわかりにくいところは英語でも話しました。彼らは全員日本のまんがに興味があったのでそのことについては盛り上がりました。

柔道が好きでオーストラリアの代表になられている生徒さんがいましたので、柔道の型を一つとって、一本背負いはダイナミックさを感じるのをそれを皆さんに披露しました。

2 限目

マンツーマンでした。女子生徒で両親は中国の北部の出身で時々は故郷に帰られるそうです。学校に飾られている絵画について、生徒よりリレー方式での説明がありました。ただ日本語を聞くということが重点であったみたいで、あまりお話をすることはできませんでした。

授業が終わって、職員室で軽食を先生方としましたが、ここでは先生との交流はありませんでした。

オーストラリアの団体との交流会

キャンベラの盲人協会の方々との交流会をもちました。この交流会は食事を取りながらテーブルごとの会話で始まりました。宴の途中での挨拶と余興です。

私は英語での挨拶にはなれていないので少し単語が出てこないところもありましたが、なんとか無事できました。

①キャンベラ盲人協会 会長のピーターさんとの話題

オーストラリアの人で視覚障害者はどんな仕事についているか？

ピーターさんは弁護士をされてみえます。主に政府関係に関する仕事だそうです。視覚障害者でキャンベラには八名の弁護士がみえるそうです。ユニバーサルデザインなどについて答申案作りなどに参加をされているそうです。

ピーターさんが最後にいみじく言われたことがいまでも脳裏に深く残っています。

「オーストラリアでも、ボランティアで会の仕事をやっている、会員から、いろんな文句がでるそうです。そのときにピーターさんが、あなたが会長になってください……。」

どこでも同じだなあと驚きました。

②オーストラリア網膜協会のブラムさんとの話題

オーストラリアの会員数は約700名。本邦では4000名、人口がオーストラリアの六倍なのでこれくらいかなあと感じた。

財源確保はどうしてみえるか？

毎年ふくろうのバッチを販売してそれを収益にしています。

ふくろうのデザインについては、毎年変えておられることと、フクロウは夜よく見えるのでシンボルとされている（網膜色素変性症は夜や暗いところは苦手）。

バリアフリーの視点から

ハード面について

あまり階段はなかった、スロープもしくはリフト（オーストラリアではエレベーターとは言わないそうです）が完備されていました。

点字ブロックはあまりみあたらなかった。階段しかないときは、階段の始まりと終わりだけに点字ブロックがありました。色は黄色ではありませんでした。

トイレで流す場合、タンクの上部の真ん中に大、小の押すボタンがどこでも同じようについていました。本邦みたいに、どこに流すところがついているかをさがさなくてもいい。

ソフト面について

白杖を持っていたらどこでも親切にいただきました。

友人と雨の中狭い歩道を歩いていたら、私たちが通りすぎるまでまってくれました。

医療制度

だれもがホームドクター（GP）を持っていて、そのドクターの紹介状がなければ専門医にはかかれません。一ヶ月以上またねばならないこともあります。

社会一般

オーストラリアで不動産を購入するには外国人が買っていい許可（不動産すべてではない）が必要。レストランでアルコール飲料がおいていない店では近くのお酒屋で買って、持ち込みが可能。

J R P S の三重支部 10 周年記念のニュージーランド旅行は思い返すたび、いろいろな温泉風景などが鮮やかに見えてきます。そして楽しかったなあと、また、いつかきつと行きたいと思わせるのです。

今回は 15 周年記念としてオーストラリアの旅を企画して頂きました。行動をともにして頂く小川美枝さんに休暇の調整をして貰って私も参加出来ることになったのでした。

インチョン空港を経由しての空の旅だったので、家を出てからシドニー空港までに 10 数時間もかかった上に、シドニー、キャンベラ間が 3 時間半バスに揺られたのでした。

行く前から聞いていましたがオーストラリアが日本から遠い国であること、そして大きな国であることを実感したのでした。その大きな国の南東の 1 部でしたが旅してきたのはキャンベラで 3 泊、シドニーで 2 泊でした。

南半球のオーストラリアは初秋と言うことで、服装はそれなりに持って行っただけですが乾燥していたことが私の喉に合わなかったのか風邪を引いて帰ってきたのでした。

シドニーからキャンベラに向かうバスの窓から見える光景を説明して貰ったら広大な土地は枯れ草や木で覆われていてお世辞にもきれいとは言えない色だそうです。日本のように赤や黄色に色づく木は無いようでした。行き交う車もきがつかなかつたし、人家も見えなくて、ほんの少し牛や羊が枯れ草を食べていたようです。その少ない草を横取りしていくのが野生のカンガルーです。家族連れで立っているのがなん組かいました。お腹の袋には赤ちゃんが顔を出していたようです。人家はずっと離れた方に有るそうです。

キャンベラは静かな落ちついた町でした。キャンベラに着いた当座はホテルの中の食堂でサンドイッチなどを注文して食べていましたが、飽きてきたので近くのスーパーを覚えて、そこで好きな物を買ってきて、部屋でルームメイト 4 人で楽しく食べるようになりました。

キャンベラでは博物館や美術館、植物園などをみました。なかなか立派なものでしたし、視覚障害者に特別の配慮をして頂きました。

私を含む 10 人はテロピアパークスクールを訪問して生徒さんと日本語の交流をしたのでした。この学校には大使や公使の子どもさんたちが多く通学しているそうです。数十カ国に渡る児童が通学しているそうです。子どもの頃から 2, 3 種類の言語をおぼえ、日本に渡って活動したいと意欲的でした。

この学校の日本語を教えておられる先生はオーストラリアの女性でしたが博物館を案内して頂いたのは若い日本の女性でした。そのほかレジなどにも日本人がいて、たくさん日本人がオース

トラリアで働いていることを実感しました。

キャンベラに滞在中にカウラという町にハイキングに行きました。そこは旧日本兵で捕虜になっていた人のお墓があるのです。戦死の広報だけで骨が戻らなかった方も沢山あると聞きますが、ここに人知れず眠っておられるのかと思うと涙をこぼさずにはおられませんでした。

キャンベラからシドニーに向かう途中でブルーマウンテンズという景勝地が有り、山々が連なっているのですがユーカリが沢山生えていて、その樹液が揮発してブルーにかすむ様子が見られるのでブルーマウンテンという名が付いたそうです。世界遺産に登録されているのもなるほどと思われるような所でした。これは、目が欲しいと思った第一の所でした。

シドニーはにぎやかな都会でした。その中でも中国人が生き生きと商売をしているのが目に付きました。帰りのシドニー空港へのタクシーの運転手が「オーストラリアがいまに中国人に買い取られるのではないか。日本人ももっとしっかりせんといかん」と言っていた言葉が思い出されます。

今回の旅行は豪NZ協会の宮本先生ご夫妻、富田さん、藤原さん、豪日協会キャンベラのスチュアートさんなどのお力をお借りして安全に楽しい旅行ができたのだと心からお礼を申し上げます。

これからもよろしくお願いします。

旅行説明会のとき。初めて、私と同じ病気の、目の不自由な人たちと会った衝撃。どんな旅になるんだろう。初めて会った人たちとの旅行。不安の中、私は付き添ってくれる祖母（80歳）と共に参加しました。

旅行は母に勧められました。私の目の病気の事を思い、今回の旅で前向きになったら良いなと考えたのだと思います。

私の目的は、暗所やパソコンの字が少しずつ見にくくなっているので、皆さんがどの様に生活してるのか、自分がこの先どう生活したら良いのか、を知りたかったのかもかもしれません。

オーストラリア（キャンベラ）への道のりは想像以上に遠かったです。まず、シドニーに到着したとき、日本車が多いなあと思いました。

シドニーからキャンベラへのバスからの景色は、信じられないくらいの広がる大地、でした。とにかく、緑みどり、牛、牛、広がる牧場。どこまでもこの景色でした。牛はいるけど、この広い土地で、牛を世話する人はどこにいるのだろうか？野生の牛？と思ってしまいました。家、人らしきものは、ほとんど見当たりませんでした。

キャンベラでは美術館にいき、作品を触らせてもらえました。皆さん一生懸命触っていました。私は、「ああ、こんな形かあ」とだけ思うところを皆さんは、ずーっと触り、「ここはこうなってる？これは何？」と、とても真剣に頭で形を描きながらうれしそうにしている姿がとても印象的でした。

国立博物館では、外壁が大きな点字になっていて、その大きさが手のひら一杯のもので、皆さんとても読める状態の点字ではなかったようです。ダイナミックな建物でした。案内の坂本さんという日本人が出迎えてくれ、不思議な感じがしたし、こんな若い子が、異国の地で働いて生活しているんだ～と驚きました。アボリジニーの楽器でみんなで演奏したのが面白かったです。

キャンベラでの学校訪問では、オーストラリアの生徒の「日本語を学ぼう！そして〇〇になって日本で働きたい！」と、明確な目的を持って日々勉強している姿勢が感じられました。また、現在の四角四面の日本の小学校と比べ、オーストラリアの子供たちは、自由であるが自己責任である、という姿勢を大人から感じた。自分にも子供がいるので、本当にオーストラリアで子供を育てたいな～と思いました。

オーストラリア交流会では、とっても流暢に日本語を話しお琴を弾くオーストラリア青年がおり、すばらしい音色で祖母のハートをわしずかみにしました。私のテーブルにはR Pの方はいませんでしたが、一生懸命、言葉が不完全な者同士・異国の者がお話し、オーストラリアのお肉や甘いデザートを頂き、大変幸せな時間を過ごしました。

カウラでは、日本ではほとんど知られていない歴史を知りました。この時本当に日本人が悲しくなっていました。日本では捕虜になることは恥ずかしい！という風潮、なのでせっかく日本人の墓を作ってくれているのに家族はお参りに来ていないと思われます。一方同じ捕虜のイタリア兵は、英雄として扱われたということで、同じ状況であるにも関わらず、残された写真も笑顔と、暗い顔と、正反対のものでした。同じことをしても住む処で全く違ったものになる。少し今の北朝鮮の事も考えてしまいました。そこにいるものはなかなかどうしようもない事かもしれない。でも、やるせない気持ちが残りました。また、そんな日本人に対して心やさしくお墓を作って頂いたオーストラリアの方に心から感謝します。もっと、日本で知られていない歴史があるのではないかと思いました。日本から出ないと解らないことがいっぱいあるんだろうな、と思いました。

ブルーマウンテンでは、その雄大な心で優しいオーストラリア人を現わすような、上にも下にも横にも大きな広がる岩山を見ることができました。心の広さは土地の広さに比例するのではないかと自分なりに思いました。私が、一番感動した場所です。

シドニーに近づくと、ビル・モノレール・オペラハウスなど都会的になり、海を船で一周しました。キャンベラ・カウラと同じ国とは思えないくらい一転し、田舎と都会と両方味わえて良かったです。又人も多く、特に中国・韓国の店・人も多く、パワーに圧倒されました。

シドニーから日本に帰国、その時このオーストラリアで大きくなった気持ちのまま日本で生活したい！と思いました。この旅行で改めて小さな日本から時々飛び出して外の空気を吸う努力が必要だと感じました。また、旅行中R Pのみなさんが、常に前向きで明るく楽しい会話をされるのを見て初めて、自分にも明るい未来が待っている、と思う事が出来ました。何でも知ろうとし興味を持つパワーは、今、目の見える私が負けております。私の人生において、忘れられない貴重な経験のできた旅行となりました。

安全で安心な旅行を手作りで考えてくださった、たくさんの方たち。ずっとこの旅行のことを計画し、陰で支えてくださり私もいい経験をさせて頂きました。本当にありがとうございました。

私たち夫婦は初めての海外旅行で、心配不安でした。

宮本先生御夫妻の綿密な計画、冨田先生などオーストラリア、ニュージーランド協会の方々にもお世話になりました。

松阪での説明会で、行動は、原則は、部屋単位で行動と聞かされ不安も解消された。安全・安心・安価の旅に皆さんとご一緒に同行させて頂ける事に、喜び感謝の気持ちで旅立ちました。国内旅行で飛行機の旅は何度かしたけれど、今回は海外なので、検閲が非常に厳しく、韓国の空港では、身体全体上から下へと検査され不快な気持ちでした。洋服の下に何か隠し持っていないかと疑われたようですが、純粹の皮下脂肪なのにと言いたかったです。

シドニーまでの空の旅も時間は長かったけれど、機内食何度出されても、美味しく頂きました。

旅行前に私たち視覚障害者のガイドヘルパーさんの娘さんが、白血病で、高熱と戦っていることを聞かされ仲間で千羽鶴を折って一日も早く快復をと、念じて飛行機の中も無心で折り退屈する事無く、シドニー空港に着いた。藤原先生が、私たちを空港で迎えてくださった。健康状態も万全でないのに案内を引き受けお世話頂き、感謝でした。

キャンベラへのバスでの移動。車窓からの景色は、季節は晩秋だったので、緑の牧草地、ユーカリの木、山は無く、小高い丘のような岩山、小さな小屋があるが、人の姿は見えない。日本ではありえ無い、坂も無く直線の路を3時間乗っても景色は変わらない。わずかの羊と牛を見かけたようだ。

いよいよキャンベラで観光。

国立美術館では20点ほどの品を手で触れさせて頂き、実感出来珍しい物に感動しました。植物園では、日本で、見かけた事のない、植物ユーカリの木も何種類も有るとの事に、又感激でした。昼食は庭園内のカフェテラスで頂き美味しかったです。

ナショナルミュージアムは、外観も大きく変わった建物のようにだけど、私には想像も出来なかった。けれど中では、色んな物の説明を聞くことができた。手でさわらせていただきオーストラリアだけにいる(かものはし)の縫いぐるみを買ってきました。珍しい物ばかりと感動するばかりでした。

16日夜は現地の方との交流会。はじまるまでの2時間は、私にとって69年間で最も寂しい不安の悲しい時間。部屋にも入れず、ホテルの中を仲間の方はいないかと狼狽えていた。辛い長い時間に思われた。宮本先生の奥様のお陰で部屋にも入る事が出来た。数人の方々から優しい心遣い有る温かい言葉を掛けて頂き嬉しかったです。

交流会は、河原会長の英語での挨拶素晴らしく上手に話されたが、私には何を話されているのか判らなかつた。交流会は、和やかに過ぎ私たち日本を代表する歌（富士山）（故郷）（幸せなら手を叩こう）を歌った。私たちのテーブルには、現地で教師をしていた日本女性80歳の方とご一緒。お孫さんが、私たちと同じ、網膜色素変性で現在東京の大学に留学しているとお話でした。

朝目覚めたら雨の音、雨具を準備してお出かけ、カウラへ兵士の捕虜収容所、展示館と墓地にバスで移動。いつのまにか、雨もやんで雨具も必要なしで良かった。捕虜されている様子が展示されて、日本の兵士は暗い様子の写真なのに、イタリア人は、対象的にサッカーを楽しんでいる様子が写されていると説明だった

オーストラリアの捕虜になった兵士は、国のために戦った英雄とし手厚く取り扱って頂けたのに、日本の兵士は戦地に出る前に、悪い軍事教育をしっかりとたたき込まれていたもので、国のために戦死した方がよいと殺されるのを覚悟で、昭和19年8月5日に脱走を企て戦死者として名前を残すために500人余りの兵士が死んだ。オーストラリアの人たちは、日本兵士の心が理解できず殺害しなければならなかつたことに、心を痛めて日本墓地を造って葬ってくれた。今でも8月5日には合同慰霊祭をして下さっているとの温かい心にふれました。墓地は、小高い丘の上であり、周囲には桜の木。近くには広い日本庭園がありました。墓地で（富士山）の歌を歌っている時に、沖縄で戦死した、父の事が悲劇のように思いが、重なってきて、涙が止めど無く流れ出て歌にならなかつた。

キャンベラからシドニーへバスで移動。又何時間もかかつての移動で、行き先は、ブルーマウンテンズへの坂道でバスはつらそうだった。ブルーマウンテンズの展望台に着いて、ガイドさんたちの声にもならない驚き、素晴らしい。

主人によると、青い海かと疑われるほどのユウカリの樹海樹液が、霧のようにただよっていたようだ。大きな岩が3つ並んで3姉妹と説明をして頂いていたが売店の品が気になって、ゆっくりとする時間が欲しかった。

その夜は、仲間の磯部さんが78歳を元気で迎えられたので、誕生パーティーで楽しく盛り上がった。私も元気でいて磯部さんを目標としたいと思った。

世界遺産の、オペラハウスの見学大きな建物で、屋根が変わって、幾つもの貝を伏せたように見えると言っていた。ハーバーブリッジの大きな高い橋の姿を説明を聞いて想像で理解し、楽しみました。シドニー湾の遊覧クルージング船上の風も気持ち良かったが、海の匂いは無かつた。モノレールに乗りホテルに帰る時、仲間と又離れたので、不安になったが、仲間のそばに行き無事にホテルに着いた。

いよいよオーストラリア旅行の最終日朝5時に、出発もう少しいたい気持ちだった。色々と驚き体験思い出多く手で触れさせて頂き、珍しい物と感動心眼に写った、オーストラリアは、素晴ら

しい空気、ゆったりとした人の動き、私は大好きだ！近い所ならば何度でも訪れたいと思った。

オーストラリアを十二分に視覚障害者に理解できる心配り、お世話頂いた方々ありがたく感謝一杯でした。

シドニー空港まで私たちと供に行動して、お世話頂いた藤原先生優しい言葉使いに、旅の疲れも心和ませて頂きました。本当にありがとう御座いました。後になりましたが、宮本ご夫妻様・富田先生・藤原先生・河原会長・小川正次さんにお世話いただいて無事に帰宅出来 満足して、安心・安全・安価の旅が出来た事を感謝しています。

旅行から帰るといつも「どこへ行ったか」ということ以上に、「誰と行くか、どんな方と出会うか」が、良かった！の要因だと感じるものです。

今回も、宮本先生の広い視野の下、お世話役の先生方の惜しみなくご自分を差し出してくださるお姿に、琴線が響きました。

また、美術館、博物館でのもてなしも、視覚障害者に対する配慮あるもので、同伴して貴重な体験をさせていただきました。さらに同行者の方々が、キャリーを持って来られたときにおっしゃった「お役に立てた！」との喜びあふれるお声。「受けるより与える方が幸い」という原則の真実性を目の当たりにしました。

すべてが相まってさわやかな旅行となりました。景観はブルーマウンテンズが最高で360度の動画に納めてきて、家族にも感動を伝えることができました。ブルーマウンテンズでは、予定をかなりオーバーして楽しむことができた。これは、夜中にたった一人でシドニーのホテルからキャンベラに帰って行った貸し切りバスの運転手のベンのお陰と感謝しています。

RETNA 豪州旅行の6月15日の午前は、二班に分かれて行事を実施しました。一班10名はテロピアパークスクールの日本語クラスに参加しました。そして、二班は、植物園の見学でした。宮本忠は一班でした。一班は、「明日の朝、10人乗りタクシーを、午前八時出発」とホテルフロントに予約しました。だがタクシーは、8時10分過ぎてもこなかった。ああ、いらいら。キャンベラではしばしばある風景らしいのですが。2班は、貸切バスで午前10時頃に植物園に向かったと思います。私どもがこの度の豪州旅行の下見に行ったときにもテロピアパークスクールの授業に参加しました。その朝は、市内で車が渋滞しておりタクシーの料金メータが、車が停まっても「カチカチカチ」と料金アップを告げるのです。ひやひやしながら乗っていました。オーストラリアの首都のど真ん中を通るので半ばあきらめていましたが、今回はかなりスムーズに運んでもらいました。

学校に入り受付でしばらくすると、メリー先生に迎えられ、そして教頭先生（女性）からにこやかな歓迎の挨拶を受けました。テロピアパークスクールは、オーストラリア政府とフランス政府が半分ずつ出資しているオーストラリア国立学校です。生徒数は1000人以上の大規模校です。70以上の国・地域出身の生徒が在学しているという、文字通りのインターナショナルスクールです。外交官の子弟が多く在学しているのもこの学校の特色のようです。

一限目（9：00～9：55）は生徒との質疑応答でした。私たちはペアで五組に分けられ、生徒がそれぞれの組に配置されていました。私たちの名簿は日本からメリー先生に送信してあり、それに基づき先生があらかじめ組み分けされていました。名簿に男女の小川さんが記載されていたので、先生は夫婦と推測しておられました。夫婦として生徒に紹介していたようでした。当日、混乱するといけないので生徒にはこれを丸秘（マルヒ）にして、この場だけの偽装夫婦として小川ペアは行動することになりました。授業の方式は、日本語で生徒が「キャンベラは好きですか」、「仕事は何ですか」、「スポーツはなにをしますか」などの質問にわたしたちが答えるというものでした。そのうち、柔道の話になり、小川正次さんと河原さんの気合のはいった柔道のデモンストレーションになり、拍手喝采となりました。大変盛り上がり、時間切れになり、メリー先生からリクエストのあった「森の熊さん」の合唱は残念ながら中止となりました。生徒が日本語を学ぶ理由の中に「日本語の先生になりたい」、「日本の会社に就職したい」、「日本に留学したい」との声がありました。

二限目（10：00～10：55）は、絵画をとおしての日本語学習でした。私たちは、生徒の手引きによって、教室をでて廊下を歩き大きな絵画の前に集合しました。絵画は、第二次世界大戦後、社会主義圏からオーストラリアに亡命した男性により画かれた人物画（？）です。生徒が一人数分間リレー式でこれを日本語で説明し、わたしたちが質問するというものでした。当然、質問がなされました。メリー先生によれば、この絵画は、オーストラリアの歴史、移民、市民権、社会主義リアリズムが表現されているということでした。しかし生徒の日本語の説明は短いものであり、私には十分理解できませんでした。生徒も先生も一所懸命でした。こんな難しいことを、語学学習に導入していることに驚いたものです。実践的かつ社会性をもった語学教育方式に深い

肝銘をうけました。

この授業後、再び、生徒の手引きによって、教員談話室に案内されました。大柄な校長先生から「ご訪問を受け光栄です」との過分の挨拶をいただきました。そして予期せざる十二分の軽食にあずかりました。誰かが「このチーズどこに売っているのかしら」とつぶやいたら、日本語の達人なメリー先生が「もう捨ててしまった」といいながら、ゴミ箱からチーズの空箱をさがし、教えてくれました。ここにも「実直なオーストラリアがある」とうれしくなりました。食事後、ハンカチ、オルゴール、手作り木工品、伊勢型紙の壁掛けなど、一つ一つ説明しながら、日本からのお土産を先生にプレゼントしました。なお、通訳は、クイーンズランド州ゴールドコーストで幼稚園を経営されている現地参加の藤原さんが担当してくださいました。正午過ぎ、学校玄関から貸切バスに乗り、植物園のカフェテリアで二班と合流し、二度目(?)の昼食となりました。



シドニーのオペラハウス前で、サーキュラーキーをバックに

9月第4土曜日に開催される世界網膜の日大会は、前々年度鹿児島大会に参加して以来2回目となる。

何度も参加する価値があるのは私たち網膜色素変性症患者が抱える病気への治癒と治療方法への研究成果の進捗状況を把握するためであることはもちろん、世界中で同じ悩みをもつ仲間たちとの交流ができるからでしょう。

視野が狭くなってきたおかげで、何故かしら憂鬱感がつきまとう。このまま暗闇の中を生活していかなばならぬ心情は誰しもが持つ深い悲しみかもしれない。消極的な後ろ向きな態度をとってしまう。それが自分でした。

しかし、今回は勉強もさることながら三重県内の同じ仲間がこんなにも元気に前向きに人生を楽しもうと努力している姿を拝見してうれしく思いました。楽しい会話やカラオケもその一つです。見えないからこそ人は耳で手で口でその不自由さを克服しようとしているのだと理解しました。

盲目の中国笛奏者楊雪元さんの記念コンサートは耳から音楽を通して私たちを喚起させ励ましてくれているような音色と歌声でした。中国と日本は音楽を通じて共通の世界を生き抜くことを呼びかけているようでした。領土問題でもめている中国人たちにも聞かせてやりたいものです。心穏やかな気持ちになりました。

RPに関する治療研究を真剣に取り組んでいらっしゃる教授や先生方に大変感謝しています。医療界最先端技術の再生医療の研究は見えない私たちの網膜に明るい未来を期待できる発表でした。機械的ではなく、自らの細胞により網膜再生が果たせれば、安全で遺伝的にも問題のないRP治療に役立つことは間違いないでしょう。

だから、国が自治体が身障者に対する介護補助を中心に患者に対して温情をかけているのだと自負していることは誠にありがたいことだけれど、結果的にお金をかけてくれるなら医療研究の未来にも補助してもらえたらうれしいのに。

2日目の京都観光は想像以上に感動することができました。建仁寺住職の懇切丁寧な説明、心遣いは感謝しております。風神・雷神の屏風が仏様を挟んで常に合掌している仏教の原点を示しているのだと納得させられました。三十三間堂の仏像たちにも改めて信心の重要さを認識させられました。

今話題の龍馬のゆかりの寺田屋を訪ねられたことも感無量の想いでした。ちょっと人出が多すぎましたが、刀傷や弾痕など見ることができて満足でした。現代では超有名な龍馬も、本来は日の当たらない陰の舞台で活躍し日本の未来を創造しようと画策した人物でした。日の当たらない面は私たちと同じなのかもしれないが、生き生きとした彼の業績が日本を変えたように、私たちも生き生きと活動できれば日の当たる場所へも出られるのだと感じました。

世界網膜の日はこれからも私たちに明るい未来を届けてもらえる海援隊のような大会である事を願います。



世界網膜の日 JRPS 京都大会 三十三間堂にて

東海北陸ブロックリーダー研修会が10月23日、24日の土曜日、日曜日の2日間にわたり、岐阜県の羽島市で開催されました。

今回も三重県からは7名の役員が参加し、総勢40数名の参加がありました。

研修会はそれぞれ1時間程度ではありましたが、下記のような5講座が開催されました。

23日の土曜日は第1講座として、

「視覚障害者の就労について」

とのことでNPO法人タートル理事で中部ブロック代表の 星野史充さんのお話でした。

星野さんは25歳で事故に遭い、全盲となるも2年間のプログラマー教育により富士通に就職されたとのことです。

プログラマーとしてチームに参加してみえたとのことですが、現在は名古屋情報文化センターに派遣のもと、パソコンの指導やハローワークで、職業相談業務そして大学の講師としても活躍してみえるとのことでした。

パソコンの活用によって、事務部門やヘルスキーパーへの職域の拡大も次第に拡大しつつあると将来の展望をお話いただきました。

また 第2講座では

「就労継続・・・私が私であるために」

とのテーマで大脇多香子さんのお話がありました。

ユニー系アピタにお勤めで、網膜色素変性症の進行により事務部門に変えてはもらったが、早くやめて家庭に入ったらとの職場の冷たい対応に、やむをえず弁護士を立ててお店との話し合いをはじめたとのことです。

何度かの話し合いを進める内にかたくなであったお店側も障害者が働き続けることの大切さを認識し、これまでとは打って変わって積極的に就労継続に協力いただけるようになったとのことでした。

パソコンによる事務経理を経て、最近では店内案内アナウンスなどといろいろな総合的事務処理を指示は勿論のこと、自分から積極的に進めてみえるとのことでした。

大脇さんは天性の明るさのもと、さらにどんな行事にもひるむことなく参加し、まさに職場を明るくする人気社員であり、看板社員になってみえるようなお話でした。大脇さんの仕事に対する思いと努力もひしひしとかがわれ、就業継続の模範的事例ではないかとみな感服しました。

翌日の第3講座は

「JRPSの方針と課題」

とのテーマで三重県の支部長でもある JRPS 副会長河原洋紀さんのお話でした。

JRPSはQOLの向上と医療技術向上のための研究助成を二大目的としている。

そのために現在の34支部を更に増やし、47都道府県全てに支部設置を努力しているとのことでした。

また、それぞれの支部活動をさらに活性化するとともに5000人の会員達成にも会員や役員の協力により成し遂げたいとの熱意あふれるお話でした。

第4講座は

「NPO法人網膜基金の活動の現状とお願い」

とのお話で NPO 法人網膜変性研究基金事務局次長瓦林謙司さんのお話でした。
瓦林さんからは、私たち自らの手で「治療法の確立」と「QOLの向上」を目指してこれまでも研究助成をおこなってきましたが、さらに研究促進を図るため基金が設けられることとなった。その目的達成のため、更に会員自身も一人でも多く、賛助会員などとなって不治の病からぬけだそうではないかとの呼びかけがありました。
フレー！フレー！もうまく基金の呼びかけに応じ、三重県の役員も大いに共鳴し、登録をしてきました。

最後の第5講座は

「ピアカウンセリングについて」

とのテーマで JRPS 愛知県支部長 新井美千代さんのお話でした。
ピアカウンセラとは、対等な仲間による仲間のためのよりそう心の治療だとのこと。
それは自信をとりもどす自己信頼の回復や挨拶などを交わす自他関係の再構築、さらには職場などの社会の変革などと大きな目的を持つと共に、QOLの向上につながるという有意義なお話でした。

今回の研修会も内容ある講義が続きました。今後の支部活動に生かしたいと思います。

このたびは J R P S 三重県支部秋の交流会に明和町によろこおこしくございました。ありがとうございました。

それから、6月に三重県支部15周年記念行事の時に大変お世話になりました宮本先生と奥様、富田先生、おりよく日本に帰っておられた藤原先生をお誘いしましたところ、皆様お忙しいなかを私たちの交流会に参加していただくことができませんでしたので、心よりうれしく感謝しております。

参加人数は36名と大勢でにぎやかに、なごやかに楽しんでおられるお声が聞かれ、まずまずよかったかなーと思えました。行事の予定としてはボランティアガイドさんが2名をお願いして参加者を2グループに分かれて斎宮歴史博物館といつきのみや歴史体験館を交代で案内をしていただきました。博物館では学芸員のかたが、発掘されたおさらや茶碗、つぼ、土器のかけらまでひとつひとつさわらせてくださって説明をしていただきました。とても感激でした。私たち視覚障害のものは博物館、美術館はなかなか理解がむづかしい場所なので、このようなお心配りをいただきますととてもうれしく感謝しています。

また体験館でも、斎王様が乗られる輿にも乗せてもらったり、打ちかけのような着物を着せ掛けてもらったり、おこうの匂いがかがせてもらったり、蹴鞠のまりにも触ることができました。このいつきのみや歴史体験館も皆様楽しそうにお声が聞こえていました。お昼の食事は斎王弁当をいただきました。弁当箱が3段重のきれいな箱でおいしいねという声もきかれましたので、これもまずまずのようで注文を取りまとめた私はほっとしました。食事の後は河原会長で始まりエチケットブックを教えてもらってよかったです。これは100円店でもあるとのお話。イスなどの足カバーをつかうのですが、白状の先にかぶせると外で使ったものを家の中に上がるときかぶせるとよいのではとのことでした。

その後宮本先生、藤原先生のお話で思い出深いオーストラリアが心の内いっぱいひろがってすごうれしかったです。

今回の交流会も素晴らしい秋晴れにめぐまれて、すこしつめたい風もありましたが、いつものように皆様の元気で明るい話し声がとてもうれしい交流会でした。

今回参加出来なかった皆様新春交流会でお会いできますよう楽しみにしています。

視覚障害者のお話を語るグループふわりんこで東京子ども図書館へ行こうと話していたのは確か今年の三月くらいだったと思います。

そして、7月8日9日で行ってきました。8日は雨が降るか心配しましたが何とか大丈夫でした。朝近鉄で津駅へ。その時津駅までも津駅での特急への乗り込みもメンバーの中の旦那さんが手伝って下さいました。特急の中では、直ぐに持ち込みのお菓子を食べて、お喋り。他のお客さんは皆新聞を読んだり仮眠したりしてらっしゃる様子でご迷惑だった事でしょう。

直ぐに名古屋に着いて、ここからが大変だと皆真剣でした。でも、名古屋駅を良く理解してる人が先導してくれて、上手く新幹線のホームまで行けました。発車まで時間が有ったので待合室で待つ事に成りました。中に入って座って、皆で又お喋りをしていました。そして、一人の人が、「あ！時間！」と言ったので私が前を見ると白いものが左から右へ動いています。あわてて皆で、電車へ駆け寄って、中に入りました。

そして、何とか席を見つけました。それから東京までホントに切れ目なしのお喋り。車内販売のコーヒーを買った時。ミルクを入れるのが難しいと思ってた時一人が「すみません。私たち目が見えにくいので蓋をする前にミルク入れていただけませんか」と頼んでみたら「普通、こんなことはやらないのですが・・・」と言いながらもやってくれました。お喋りをしていたから結構天気良かったのに富士山を確認する事すら忘れていました。

東京に着いて、電車から降りると直ぐに二人の人が来てくれました。お頼みしていた人たちです。安全な場所まで移動して、紹介しあいました。津の盲学校の先生を退職されて東京に住まわれているM先生とそのヘルパーさんです。

私たちは、渋谷のハチ公を見に行きました。皆でハチ公を触ってみました。思ったよりしっぽが太いのには驚きました。それから、おしゃれな代官山のイタリアンレストランでランチを頂きました。代官山の駅からレストランまで坂道で、建物が殆ど白で緑の木が沢山あってとても綺麗でした。

レストランで食べてから、長い間お喋りしました。先生も生徒も近況報告をしました。それから、東京の視覚障害者のヘルパーさんの事等も。先生を手引きされていた方は、視覚障害専門のヘルパーさんでした。そういう方が、いるところも有ると聞いていましたが初めてお会いしました。先生は、月に50時間ヘルパーさんを使えて、それ以外に家に週に二回来ていただいて手紙を読んだりしていただくそうです。先生は杉並にお住まいらしいのですが、他の区ではふた月で100時間って使い方もできるそうです。実際、あの日ヘルパーさんは先生と朝10時に東京駅に来ていて、帰りは夜7時前に私たちと別れて先生を送って行かれました。翌日、区役所へ一緒に行くと言ってみえました。

そんな話をした後、目ざとく棚に有る楽しそうなものを見つけて、早速棚へ。ハーブティーや、ジャム、乾燥ひよこ豆等など。私には乾燥ひよこ豆は魅力的でしたが重いのであきらめてハーブティーを買いました。それから、新宿へ出て、デパートを3つめぐりました。皆、扇子や財布、バッグを買いました。

それから、中野サンプラザまで、二人に送っていただきました。二人で部屋まで来て、お風呂の使い方まで教えてくださって帰って行かれました。本当に気持ちのいいお二人でした。ちょっと休憩して、四人で夜ごはんを食べに出て行きました。ヘルパーさんは来る途中でホテル

の横に長い幾つものアーケードが有るってその近くでちゃんと教えて下さったのです。さあ、外へ出て、四人だけでお出かけです。歩いて行きました。アーケードの入り口にユニクロが有ったのでここへ戻ってくるのだと確認して中へ入って行きました。数えきれない店の数。あちちの店を見て楽しんでいましたが、そろそろご飯を食べないと、と探すとなかなか見つからない。外で声をかけていた女の子に聞いたら、店の中の人に聞きに行ってくれて隣がそうだと言いました。その店の中に入って私たちがうろうろしてたらお客さんの女の子の人が「あっちで、食券を買うんですよ。」と教えてくれた。食券を買って待ってたら、その人がカウンターの所へ行って私たちの分を持ってきてくれたので、私たちは驚いて取りに行ったのです。その人は、食べ終わっていたけれど、私たちの為に暫く待っていてくれたのでした。お礼を言って食べてからホテルへ帰りました。その後お風呂に入ってから、また長々とお喋りをしてました。明日お話を聞くのに寝てしまうんじゃないかと皆心配でした。

それでも、ちゃんと朝起きて、昨夜買った朝ご飯を食べて、ホテルの人に聞いておいた、バス停まで行き、確認しようとキップ販売所へ行き、聞くのですが、選挙演説をしてる人が多すぎて声が聞こえにくかったです。バスに乗って、芳花園住宅というバス停で降りて、行き方を書いたメモを頼りに歩いていると途中で図書館の人に声をかけていただいてご一緒できました。まだ、時間が早かったのですが中に入れていただき、「どうぞ、一番前に」との言葉で、一番前に座らせていただきました。

その後、ふわりんこでお世話になってる Y さんがみえました。彼女は前日講習を受けられ、翌日のお話を私たちと一緒に聞いて下さったのです。全国のストーリーテリングをやる人が聞きたいと思っているのですが、葉書が当たった人だけが聞けるのです。本当に楽しいお話会でした。終わってから図書館の方に、図書館内を案内していただきました。

それから、名残惜しいけれども、またバス停に戻りました。バスを待っていると、一緒にお話を聞いた人が3人来て、話しました。中野の駅に行って、キップの買い替えやら、お弁当やらを買って大急ぎでホームまで行きました。発車まで10分前でした。中野のバス停から2時間ですからホントに大変なスピードでした。電車に乗れてほっとしました。私たち4人だけなら到底無理でした。名古屋に着くまでの間、おはなしの事を話していました。名古屋に着いて、快速に乗り換えて津のグループはそこで近鉄に乗り換えて家に帰りました。

今回の旅行、私たちが必要な時には何時も誰かが手伝ってくれました。元々頼んでいた、先生やヘルパーさん Y さんは勿論、それ以外の夜ごはんを食べる時お店で手伝ってくれたお客さん、バスの事を丁寧に教えて下さった人等等、沢山の人の手伝いで行けました。一人でなら難しい事でも何人かで行くと何とか成るものだなあと思える楽しい二日間でした。

第15回R P 三重総会議案書

1号議案. 平成21年度事業報告

下記の行事を主催または共催し参加しました。

日時	用件	場所	参加人数(会員)	付き添い等
4月2日	難病相談	難病センター	支部長	1名
4月10日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
4月22日	NPO三重難病連の理事会	難病センター	支部長	1名
5月9日	役員会	松阪市市民活動センター	9名	
5月18日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
5月22日	NPO三重難病連の総会	難病センター	支部長	1名
5月22日	NPO三重難病連の理事会	難病センター	支部長	1名
5月29日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
5月30日	代議員会	東京	2名	
5月31日	JPAの総会	東京	支部長	1名
6月1日	国会請願行動	東京	支部長	1名
6月2日	難病相談	難病センター	支部長	1名
6月10日	NPO三重難病連の理事会	難病センター	支部長	1名
6月26日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
6月28日	定期総会	福祉会館	42名	
6月29日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
7月5日	地域相談会	桑名市	2名	
7月8日	NPO三重難病連の理事会	難病センター	支部長	
7月24日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
7月26日	JRPSの運営会議	東京	支部長	
8月19日	難病センター運営会議	難病センター	支部長	
8月19日	NPO三重難病連の理事会	難病センター	支部長	
8月24日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
8月27日	難病センター運営協議会	難病センター	支部長	
8月28日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
8月30日	国際交流会	森林公園	19名	
9月1日	難病相談	難病センター	支部長	
9月5日	JRPSの運営会議	東京	支部長	
9月6日	地域相談会	三重県尾鷲庁舎	支部長	
9月6日	NPO三重難病連の理事会	三重県尾鷲庁舎	支部長	
9月13日	歩行訓練	久居駅周辺	7名	2名
9月13日	プレックストークの使い方	ポルタ久居	21名	
9月13日	役員会	ポルタ久居	5名	

9月25日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
10月4日	地域相談会	三重県松阪庁舎	7名	
10月15日	NPO三重難病連の理事会	難病センター	支部長	
10月15日	相談員研修会	難病センター	支部長	
10月16日 ～18日	全国難病センター研究会	盛岡	支部長	
10月17日 18日	東海、北陸リーダー研修会	福井	5名	
10月26日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
10月27日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
11月1日	地域相談会	三重県鈴鹿庁舎	2名	
11月3日	秋の交流会	鳥羽市	32名	
11月6日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
11月19日	NPO三重難病連の理事会	難病センター	支部長	
11月19日	相談員研修会	難病センター	支部長	
11月20日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
12月8日	難病相談	難病センター	支部長	
12月14日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
12月18日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	1名
12月25日	15周年記念旅行実行委員会	高田短大	4名	2名
12月27日	JRPSの運営会議	東京	支部長	
1月6日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	
1月12日	NPO三重難病連の理事会	難病センター	支部長	
1月12日	難病相談	難病センター	支部長	
1月14日	難病相談	難病センター	支部長	
1月24日	新春交流会	フォレストピア	28名	
1月24日	JRPSの運営会議	東京	支部長	
1月30日 ～31日	難病者のコミュニケーション会議	仙台	支部長	1名
2月9日	NPO三重難病連の理事会	難病センター	支部長	
2月9日	相談員研修会	難病センター	支部長	
2月15日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	
2月20日	JRPSの運営会議	東京	支部長	
2月23日	研究倫理委員会	三重大学	支部長	
3月2日	難病相談	難病センター	支部長	
3月13日 14日	支部長会	横浜	副支部長	
3月13日 14日	全国難病センター研究会	新潟	支部長	

2号議案. 平成21年度決算報告

収入の部

項目	細目	予算額	決算額
本部より支部支援金		50,000	50,000
QOL 対策費		20,000	20,000
総会(参加費)	500円×30名	15,000	15,000
総会(弁当代)	1000円×33名	30,000	33,000
総会(懇親会費)	3000円×16名	60,000	48,000
新春交流会参加費	4000円×27名	120,000	108,000
難病センターより		92,000	92,000
寄付		60,000	88,701
雑収入	アステラスからの助成金、共同募金、 秋の交流会参加費など	110,000	244,360
合計		557,000	699,061

支出の部

項目	細目	予算額	決算額
役員行動費		120,000	115,920
総会の印刷費		3,000	3,711
総会の通信費		3,000	360
総会の講師謝礼等		80,000	76,350
会場使用料等		25,000	24,460
総会の弁当代		30,000	39,000
ボランティア交通費等		10,000	9,050
懇親会費		60,000	44,030
三重難病連の会費		20,000	20,000
会報の印刷費		4,000	2,460
会報の通信費		1,000	3,568
新春交流会の印刷費		1,000	0
新春交流会の通信費		2,000	0
新春交流会の講師の謝礼等		10,000	5,000
ボランティア交通費等		10,000	0
新春交流会の食事代		110,000	100,862
勉強会での講師謝礼等		40,000	35,000
勉強会のボランティア交通費等		5,000	0
事務費		10,000	18,538
雑費	秋の交流会費、すべての交流会での 残金を網膜基金に寄付等		123,008
予備費		13,000	
基金積み立て			77,744
合計		557,000	699,061

3号議案. 平成22年度事業計画 (案)

日時	用件	場所
4月1日	難病相談	難病センター
4月28日	NPO三重難病連の理事会	難病センター
5月2日	役員会	松阪本町公会堂
5月2日	設立15周年オーストラリア交流旅行の説明会	松阪本町公会堂
5月24日	NPO三重難病連の総会	難病センター
5月30日	JPAの総会	東京
6月1日	難病相談	難病センター
6月12日	代議員会	東京
6月14日～20日	設立15周年オーストラリア交流旅行	オーストラリア
6月27日	定期総会	松阪市福祉会館
7月4日	四日市地域難病相談会	ヘルスプラザ
8月3日	難病相談	難病センター
8月31日	難病相談	難病センター
8月で日時は未定	国際交流会	松阪市森林公園
9月5日	伊賀地域難病相談会	伊賀県庁舎
9月14日	難病相談	難病センター
9月19日	研修会「歩行訓練」	場所は未定
9月25日～26日	世界網膜の日	京都
10月3日	熊野地域難病相談会	熊野県庁舎
10月30日～31日	東海北陸リーダー研修会	羽島市
11月3日	秋の交流会	斎宮歴史博物館周辺
11月7日	松阪地域難病相談会	松阪県庁舎
11月30日	難病相談	難病センター
12月7日	難病相談	難病センター
1月30日	新春交流会	鈴鹿市
3月24日	難病相談	難病センター
3月で日時は未定	役員会	未定

4号議案. 平成22年度予算(案)

収入の部

項目	細目	金額
本部より支部支援金		50,000
QOL 対策費		20,000
総会(参加費)	500円×30名	15,000
総会(弁当代)	1000円×30名	30,000
総会(懇親会費)	4000円×20名	80,000
新春交流会(参加費)	4000円×30名	120,000
難病センターより		80,000
寄付		70,000
助成金	共同募金などからの助成金	50,000
合計		515,000

支出の部

項目	細目	金額
役員行動費		80,000
総会(印刷費)		3,000
総会(通信費)		3,000
総会(講師謝礼等)		80,000
総会(会場使用料等)		25,000
総会(ボランティア交通費等)		10,000
総会(弁当代)	1000円×30名	30,000
総会(懇親会費)	4000円×20名	80,000
三重難病連の会費		20,000
会報(印刷費)		4,000
会報(通信費)		1,000
新春交流会(印刷費)		1,000
新春交流会(通信費)		2,000
新春交流会(講師謝礼等)		10,000
新春交流会(ボランティア交通費等)		10,000
新春交流会(食事代)		100,000
勉強会(講師謝礼等)		25,000
勉強会(ボランティア交通費等)		5,000
事務費		10,000
予備費		16,000

合計	515,000
----	---------

5. その他

①代議員の選任について

S S K A

ああるぴい

—◇ 編集後記 ◇—

1. 《この目に確かな治療法を！》

「1千人のチャリティコンサート」開催のご案内

□日 時 平成23年4月10日（日）

13時30分～16時（開場：12時30分より）

□収益はすべて網膜基金に寄付されるそうです。

□申込み・問合せ先 事務局 山本Tel 090-6058-3951、 嶋村Tel 090-7343-8980

E-mail osaka@jrps.org（メールによる申込みも可）

2. 新春交流会のお知らせでも書かせていただきましたが、当日に、オークションをさせていただきます。都合がつかなくて参加できない方でも、私宛に遊休品を送ってくだされば、当日のオークションにかけさせていただきます。

3. メールをされている方で、まだ支部長までメールアドレスを連絡していただいていない方は、是非連絡をお願いします。メールだと経費と時間が大幅に短縮されますので、ご協力をお願いします。

4. 新春交流会に、是非参加してください。

発行人：障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区砧6-26-21

編集：R P 三重会報編集部 河原洋紀

〒515-0847

松阪市岩内町614

（電話・FAX） 0598-58-2664

（e-mail） hk2664@aqua.ocn.ne.jp

定価200円